

1セグメント地上デジタル放送

UHF帯域(470～770MHz)の1チャンネル当たり6MHzの周波数帯域幅を用いて13セグメント(データの単位量)のデジタル信号(映像、音声、データ)を放送し、そのうち1セグメントをモバイル(携帯)機器向けサービスに割り当てた放送のことで、放送開始は来春予定。

無線4Gサービス

第3世代携帯電話(3Gサービス)に続く、次世代4G(4th Generation)の携帯電話サービス規格の総称で、明確な定義は、利用する周波数帯の割り当ても含め2007年のITU-T(国際電気通信連合無線通信部会)会合で決まる予定。総務省は日韓で歩調を合わせた3,400～4,900MHz帯を検討しており、ITU-T会合で各社が4G通信方式の提案を行い、標準化が始まると見られる。

BD(Blu-ray Disc)

主要電器メーカー9社が共同策定した、書き換え可能な大容量相変化光ディスクの規格で、トラックピッチをDVDの約半分となる0.32μmに、波長の短い青紫色レーザー光を採用することによって最短ピット長も0.14μm前後にそれぞれ縮小している。記録容量は単層では最大27Gバイト、2層では最大54Gバイト、データ転送レートは標準速では最大36Mビット/sとなっており、民生用の映像記録用途を主にした規格。

MBP(Multi Band Pass)フィルタ

透過率を向上させることによってディスプレイパネルの特性を最大限に生かした高輝度を実現し、色の再現性を高めるほか、モニタの反射による映り込みをカットし、ディスプレイパネルから発光された必要な光だけを通す。

TS(Transport Stream)形式

デジタル放送で採用されている多重信号形式のことで、映像や音声、データなどを一つのストリームとして多重化する。放送などの伝送に適した形式であることが特徴である。

PSK(Phase Shift Keying)

BS(放送衛星)・110度CS(通信衛星)放送で採用されているデジタル信号変調方式で、デジタル信号に対して、搬送波の位相を変化させる変調方式のこと。

OFDM(Orthogonal Frequency Division Multiplex)

地上デジタル放送で採用されているデジタル信号変調方式で、中心周波数の異なる複数の搬送波を利用して、シンボルを並列送信する。隣り合う搬送波を近接させても干渉することがないように、互いに直交させて送信することで周波数利用率が高められることが特徴。

UDF(Universal Disc Format)2.5

CD-RWやDVDに採用されているファイルシステムのフォーマットで、OS(Operating System)に依存しないのが特徴。光ディスクに関する業界団体が規格化され、国際標準規格となっている。

AACS(Advanced Access Content System)

Blu-rayレコーダに採用される著作権保護技術の一つで、ITやエンタテインメント産業、家電メーカーなどで構成する団体が規格化を進めている。

1-7PP(1-7 Parity Preserve)変調

Blu-rayディスクへの信号記録に採用されている変調方式で、小さな単位でデータをパッキングすることにより、変調効率を高めるのが特徴。また、変調前後のパリティを同じにすることで、DCコントロールを容易にしている。

PRML(Partial Response Maximum Likelihood)技術

高密度磁気記録用に開発された再生信号処理方式。ピックアップで読み取る再生信号が直前の信号の影響を受ける特性を考慮して元の波形を再生する技術と、記録信号の特徴に基づいて、再生信号から最も確からしいデータを読み取る技術を組み合わせたもの。

VBR(Variable Bit Rate)

映像信号を符号化する際、データ量に応じて記録するビットレート(一定時間に転送する符号量)を変化させる、可変転送レート制御方式。映像の変化(色の移り変わりや、動き)の大きい部分でビットレートを高くし、変化の小さいところでは低く制御する。

10フィート ユーザー インタフェース

パソコンには、キーボードとマウスを使用して本体装置の近くで操作する使い方と、リモコンを使用して本体装置から距離を置いて操作する使い方がある。前者を「2フィート ユーザー インタフェース」と言い、後者は「10フィート ユーザー インタフェース」と言う。

LKST(Linux Kernel State Tracer)

エンタープライズLinux推進に関する4社協業(日立製作所、日本アイ・ピー・エム株式会社、富士通株式会社、日本電気株式会社)の一環で、日立製作所が主体となって開発したツール。Linuxカーネルに関する約100種のイベントをトレースする機能を持ち、システムの各種挙動解析を可能にする。

DLNA(Digital Living Network Alliance)ガイドライン

DLNAは、音楽や写真、ビデオなどのデジタルコンテンツをAV(Audio-Visual)機器間で共有化することを目的として、家電、パソコン、モバイル機器などのメーカーが集まり、2003年6月に設立された。最初のガイドラインは2004年6月に発行され、AV機器やパソコンとの間で共有化に必要な機器接続手順や映像データフォーマット、伝送方式などの基本的な部分の標準化がなされた。今後は、著作権保護方式やモバイル機器との連携方式などについて議論が進められる見込みである。

DCT(Discrete Cosine Transform)

離散コサイン変換と訳される。デジタル信号を周波数成分に変換する計算方式であり、MPEG(Moving Picture Experts Group)やJPEG(Joint Photographic Experts Group)の画像符号化方式に広く用いられている。デジタル画像では隣接する画素どうしが近い値を持ち、なだらかに変化することが多いため、DCTによって周波数成分に変換すると係数が低周波成分に集中し、情報量を効率よく圧縮することが可能になる。

H.265

H.264に続く次世代の技術としてITU-Tで検討開始が予定されている画像符号化方式の名称。現在はまだ規格策定は開始されておらず、圧縮率向上方式、計算処理負荷軽減方式、エラー耐性向上方式についての基礎的な検討が進められている。

GUI(Graphical User Interface)

UI(User Interface)は、ユーザーに対する情報の表示様式や、ユーザーのデータ入力形式を意味する。UIには、大別して、文字ベースのCU(Character User Interface)とグラフィックベースのGUIがある。